

庄原市議会議員活動などに関するアンケート調査  
集計結果

庄原市議会議員定数及び議員報酬調査特別委員会

令和5年2月

## 目 次

I. アンケート調査の概要	・ ・ ・ ・ ・ 1 P
II. 調査項目	・ ・ ・ ・ ・ 2 P
III. 集計結果	・ ・ ・ ・ ・ 4 P

# I. アンケート調査の概要

## 1 目的

市議会では議長からの諮問を受け、「議員定数及び議員報酬調査特別委員会」を令和4年6月議会において設置した。

議員定数及び議員報酬に関しては、平成25年を最後に議論がなされていない。議員定数は合併当初の33名から25名、そして20名と段階的に削減をしてきたが、議員報酬の額は据え置かれたままとなっている。

特別委員会で定数と報酬にかかる議論の参考とするため、各議員の考えについて無記名でのアンケート調査を実施した。

## 2 調査対象者

庄原市議会議員全員（20名）

## 3 調査期間

令和5年1月20日～2月6日

## 4 調査項目

別紙アンケート様式のとおり

## II. 調査項目

問1 本会議や委員会への出席のほかに、あなたご自身が行っている議員活動とその活動時間（1か月の平均）を教えてください。

- ① 消防議員などの議会選出の公職としての用務（                      時間／1か月）
- ② 一般質問の準備など議会活動に付随する用務（                      時間／1か月）
- ③ 地域の行事（                      時間／1か月）
- ④ 政務調査活動（                      時間／1か月）
- ⑤ 会派活動（                      時間／1か月）
- ⑥ その他（                      ）（                      時間／1か月）

問2 問1で回答した活動は、市民に周知がされていると思いますか。

- ① 思う
- ② 思わない

問3 あなたご自身の議員活動を市民に知ってもらうために、どのようなことを行っていますか（複数回答可）。

- ① 個別訪問
- ② 活動報告などをまとめた紙面の配布
- ③ 活動報告会
- ④ インターネット、SNSの活用
- ⑤ 街頭での演説
- ⑥ その他（-----）

問4 あなたの意見や市民からの声が、市政に反映されていると思いますか。

- ① よく反映されている
- ② ある程度反映されている
- ③ あまり反映されていない
- ④ 全く反映されていない
- ⑤ わからない
- ※理由（-----）

問5 あなたご自身の居住地（旧市町単位）以外の地域に積極的に赴き、議員活動を行うことがありますか。

- ① 多いにある
- ② 少しある
- ③ あまりない
- ④ 全くない
- ※理由（-----）

問6 現在、旧比和町及び旧総領町在住の議員が選出されていませんが、この状況についてあなたの考えを教えてください。

問7 旧市町単位での選挙区制は必要だと思いますか。

- ① 必要
- ② 不要
- ③ どちらでもない

※理由 (.....)

問8 現在の議員定数は20人ですが、この定数についてどう思いますか。

- ① 適当
- ② 多い
- ③ 少ない

※理由 (.....)

問9 問8で②～③を選ばれた方にお尋ねします。具体的な議員定数は何人だと思いますか。

※人数 ( ) 人

※理由 (.....)

問10 議員報酬の月額32万5千円についてどう思いますか。

- ① 適当
- ② 多い
- ③ 少ない

※理由 (.....)

問11 問10で②～③を選ばれた方にお尋ねします。あなたが思う議員報酬の支給額とその理由をお書きください。

※報酬 ( ) 円/月額

※理由 (.....)

問12 最後に、議員活動、定数、報酬等についてご意見があればご記入ください。

### Ⅲ. 集計結果

問1 本会議や委員会への出席のほかに、あなたご自身が行っている議員活動とその活動時間（1か月の平均）を教えてください。

	回答人数	平均時間数	最高時間数	最小時間数
消防議員などの議会選出の公職としての用務	10	11.7	60	1
一般質問の準備など議会活動に付随する用務	19	29.7	80	1
地域の行事	19	12.9	30	1
政務調査活動	19	31.7	100	1
会派活動	15	17.7	100	2
その他※	11	50.8	100	3

※その他・・・ブログの更新等、議長公務、挨拶回り、党活動、まちづくり活動  
調査研究、現地確認、市関係課との協議等、相談、地域ボランティア  
地域要望等の調査

問2 問1で回答した活動は、市民に周知がされていると思いますか。

	回答人数
思う	3
思わない	17

問3 あなたご自身の議員活動を市民に知ってもらうために、どのようなことを行っていますか（複数回答可）。

	回答人数
個別訪問	12
活動報告などをまとめた紙面の配布	11
活動報告会	9
インターネット、SNSの活用	9
街頭での演説	8
その他※	3

※その他・・・会合やイベントへの出席、オープンスペースの開設  
地域活動を通しての住民との交流や意見交換

問4 あなたの意見や市民からの声が、市政に反映されていると思いますか。

	回答人数
よく反映されている	1
ある程度反映されている	8
あまり反映されていない	9
全く反映されていない	1
わからない	1

【回答の理由（自由記載）】

- ・届けた言葉を受け止めてもらっていると思うから。
- ・一般質問など提案型の質問をしている。
- ・反映される事もあるがもう少し反映できるような方策を講じなければならない。
- ・本来は行政と市民で完結する内容が多くあるが、身近な議員として要望を聞くことがあるから。また市政全般に関する事も、市担当者との話し合いを通して実現している事もある。
- ・なかなか提案が認められていないから。
- ・1人会派で反映されていない感じがするため。
- ・なかなか実現しないから。
- ・市政は個人の意見を反映するものではないから。

問5 あなたご自身の居住地（旧市町単位）以外の地域に積極的に赴き、議員活動を行うことがありますか。

	回答人数
多いにある	8
少しある	9
あまりない	3
全くない	0

【回答の理由（自由記載）】

- ・（居住地以外での活動は）当たり前のことだから。
- ・声をかけてもらえる場合があるから。また他地域にも対策が必要と思う事案があるから。
- ・他地域の住民から要望があるから。
- ・他地域の状況調査や、市全域に関わる事について調査研究に行くことがある。
- ・庄原市議会の議員だから（多いにある）。
- ・できるだけ地域外で活動したいと思うが、新型コロナウイルス感染症の影響で活動することが少なくなっている。

問6 現在、旧比和町及び旧総領町在住の議員が選出されていませんが、この状況についてあなたの考えを教えてください。

【回答（自由記載）】

- ・地域での対応は議員が選出されていなくても関係がないと思う。
- ・問題がないと思う。
- ・当該地域の住民の意見が市政に反映されにくい。
- ・今後も選出議員がなしと考えるのはいかがなものか。可能性はあると思う。
- ・現在の選挙のやり方では仕方がないのではないかと思う。
- ・地域の課題が見えにくく取り組みが遅れることがあると思うが、他の情報収集の方法も考えられる。
- ・地域代表としての面ではその地域に少し不利になるが、他を考えても決して地域をまんべんなくカバーして選出されている訳でもないので、特に問題はない。
- ・全地域で声を届けることができる体制が必要。地域から必ず選出する必要はなく適任者、志がある方が出るべきだと思う。
- ・居住していないとわからない部分も多々あるため、一人ずつは議員がいてその議員を核にして全体が支えるのが理想と考える。
- ・実態としては仕方がないと思うが、当該地域の人口が少ないからと考えると少し複雑な気持ちである。このまま人口減少同様、議員定数も減少すれば市議会としての人材不足や機能低下などを危惧している（自治体としても同様）。
- ・合併以降、この選挙の方法にした以上、当然予想されたことであり仕方がないと思う。
- ・当該地域の人口が減少する中で、地域を代表して選挙に臨むことへの不安も大きく感じているのではないかと思う。この状況により、選挙支援組織の確立も困難となるのではなかろうか。
- ・国会議員も小選挙区制度がある。県議員も選挙区制度である事を考えても、広い庄原市においても、小選挙区制度を検討する余地はあると感じる。特に総領地域においては、合併前の圏域も違う事から考えても議員の割り当てはあった方が良く感じる。
- ・今回は選出されていないというだけ。今後はわからない。

問7 旧市町単位での選挙区制は必要だと思いますか。

	回答人数
必要	2
不要	17
どちらでもない	1



【回答の理由（自由記載）】

- ・選挙区制がよいとは思わないが、旧市町から一人は出てもらえるように何かしらのサポートがあってもいいかと思う。
- ・全てとは言わないが、普段の議員活動は居住エリアに関連する事が多いことから選挙区制を検討すべきと感じる。議員のなり手不足の解消にもつながると思う。ただし、区割りは旧市町単位ではなく、エリア制も検討すべき。また政党も地方自治体、特に市町においては必要性を感じない。必要と判断される場合は、政党については比例代表制度も検討すべきである。
- ・議員は庄原市全域の議員として考えるべき。
- ・市全体での行政が行われなくてはならない。
- ・必要性を感じない。
- ・現行で問題ない。
- ・志のある方が地域に多数いる場合困るから（不要）。
- ・現段階で選挙区制が導入されていないので不要と考える。
- ・別の地域の議員でも、議員がいない地域の住民の意見を聞くことはできる。
- ・我田引水の意見が多くなり、大所高所の考えが出なくなる。
- ・旧市町単位でしか活動しなくなるかもしれないから。

問8 現在の議員定数は20人ですが、この定数についてどう思いますか。

	回答人数
適当	15
多い	5
少ない	0

【回答の理由（自由記載）】

- ・委員会の構成や十分な議論がなされる人数は必要。
- ・広い地域を把握するために一定の人数は必要。
- ・変更する必要はないと考える。
- ・人口、面積を考えると少ないくらいだが、社会的に増員は不可能。
- ・（適当と思うが）市民の意見は定数を減らす声が大半であることから、検討する必要があると感じている。
- ・平成25年に定数を大幅に削減した時に、20名が最適と判断した。
- ・人口も減っているので議員も減らすべき。
- ・現在の議会運営を前提とした場合は多いと思う。
- ・多いとも少ないとも感じていない。

問9 問8で②～③を選ばれた方にお尋ねします。具体的な議員定数は何人だと思いますか。

具体的な議員定数	回答人数
14～16人	1
16人	1
18人	3

【回答の理由（自由記載）】

- ・議長を除いて奇数。1 常任委員会 7 名程度。
- ・定数割れ、類似団体との比較、議員の平均年齢などの視点から。
- ・議員報酬を上げるべきと考えるので、市民の理解を得るためにも定数削減は必要。
- ・18名でも議員活動等は可能と感じる。

問10 議員報酬の月額32万5千円についてどう思いますか。

	回答人数
適当	7
多い	0
少ない	13

【回答の理由（自由記載）】

- ・民間の給与ベースから考えると適当ではないか。
  - ・市民感情を考えれば変更する必要はない。
  - ・報酬は減らしてもよいが、人並みの社会保障がないと若い人が専門議員になりづらいと思う。
  - ・都市部の議員と比較して、能力的にも機能的にも劣っている訳ではないから。
  - ・子育て（教育）を考えると、現在の額では生活費にしか充当ができないと思う。
  - ・専業として議員活動をするには少ない。
  - ・子育て中の議員は養育費が捻出できない。
  - ・ガソリン代、交際費、研修費が想像以上に必要であるため。
  - ・若い人に立候補して欲しいのもっと上げるべき。
  - ・現在の報酬額は、合併時に当時の庄原市議会議員の報酬に合わせた額である。
- 議員定数を 25 人から 20 人に削減した際、報酬について増額に向けた議論もなされたが、議員定数と議員報酬は別の理論であり、それぞれの根拠についての説明が必要ではなかったか。住民自治を充実させるための条件としての議論と

なる。また、現在の議員の為だけではなく、将来的に多様な住民が議員になれる条件として考える必要がある。

- ・所得税を控除された実質手取り額から国民健康保険税などの必要経費を差引くと決して多い額ではない。退職金も失業保険も無いこと、4年に1度の選挙があることなどを考えても、報酬は決して高いとは言えないと感じる。議員活動としての燃料代などの経費も自身の報酬から出さなければならないこともあり、今後現役世代からの立候補者が出にくいと感じる。また昨今の物価上昇などの視点を入れても、報酬増を検討すべきである。

- ・社会保障を充実させないと生活ができない。
- ・社会保障を考えると少ないと感じる。
- ・市職員の平均給与よりも少ない。係長と同程度になるような制度になればよい。
- ・本来であれば報酬に関係なく志で議員を目指すものだと思うが、現実として経済的に問題がない人は多くはない。そうであるならば報酬のみでしっかり活動ができる額がよい。

問11 問10で②～③を選ばれた方にお尋ねします。あなたが思う議員報酬の支給額とその理由をお書きください。

議員報酬額	回答人数
350,000～360,000	1
370,000	2
380,000	1
400,000	4
400,000～450,000	1
420,000	1
450,000	1
500,000	1
800,000	1

【回答の理由（自由記載）】

- ・全国平均程度の額にするべき。
- ・生活給として。
- ・三次市と同等でもよい。
- ・三次市、大竹市と同レベルに。庄原市は広大な面積を有し議員活動の範囲も当然広がる。
- ・近隣市町や同規模の市町と比較、検討して決定するべき。

- ・財政的に厳しいと思うが、子育てや教育にも配慮すべき。
- ・生活をしていく上で必要だと思うから。
- ・年金、保険を加味した金額。
- ・上記問10の理由に書いた点を考慮した結果、あるいは現在議員としての活動を根拠に試算した場合、今後現役世代からの立候補者を増やすことを考えた時の月額報酬は、記載額（50万円）が妥当であると考えたから。
- ・兼業をせずに、議員活動が中心となるようにするため。
- ・庄原市は移動が多い。市外にも気兼ねなく出て活動できるように。

## 問12 最後に、議員活動、定数、報酬等についてご意見があればご記入ください。

### 【回答（自由記載）】

- ・定数を25人から20人に削減した時、議会運営などを考えギリギリの数にした。現在の人口を考えると妥当な人数だと思う。将来、今の人口より1万人減という状況になれば考えなくてはいけないと思う。
- ・最近の地方議会議員選挙における投票率の低下、無投票当選の増加、議員のなり手不足の状況は、住民自治の根幹にかかわる深刻な問題と受け止められている。多様な人材の地方議会への参画が必要であり、現在の状況を越えた将来に向けての議論が必要と考える。以前より「地方議会のあり方」について全国市議会議長会においても議論が進んでいたが、地方議会の意思決定機関としての位置づけと議員の職務を法律上明確化される方向である。併せて地方議員に立候補した従業員が、選挙期間中に休める「立候補休暇」の導入論議も始まっている。このような動きも踏まえての議論が必要と考える。
- ・議員年金制度の復活。政務活動費の見直し。コロナ禍でもあり、十分な活動ができない状況ではあるが、市民に十分に理解していただくようしっかりとした議論が必要であると思う。
- ・今後若者がチャレンジしやすい環境整備が必要。住民が活動を理解し、身近に感じられるような広報や発信努力が必要だと思う。兼業可能とはいえ、議員活動にかなりの時間を要するため、地域や企業の協力は絶対必要。子育て世代が議員としてやっていくためには、家事、育児、介護をしながら活動ができる環境がもっと整備されるべき。政治の教育、男女共同の教育は必要不可欠。
- ・人が減る一方、取り組むべき課題は増えてきている中、議員が職務に専念できるように報酬増ではなく、年金、保険などの社会保障の整備が求められる。逆に兼業が大前提であるならば、一人当たりの報酬は下げ、人数を増やし、市民にも議員の働き方について理解を得る必要がると考える。
- ・本来なら議員定数も20名以下に減らすべきではないと考えるが、市民への説明のためには定数を減らして、議員報酬を上げていくことが必要と考える。現在の報酬額は合併前の旧庄原市の額であり、もう何年も上げていない。現在の物価上

昇を考えてみても、そろそろ上げていく時ではないかと考える。

・二元代表制が真に確立する中で、市民に頼りにされる機関として成長することがまず必要である。そのためには執行者の提案に対して受け身になるのではなく、より積極的に議決権、提案権、発議権を行使し政策誘導ができる機関へと成長しなければ、定数報酬等の議論は困難なのではないかと思う。何より意欲のある次世代議員を確保するためには、報酬を生活給としての視点を持って考えることも大切であると思う。

- ・定数の変更を報酬増とつなげて考えてはいけない。
- ・報酬増を考えるなら 40 万円を超える金額であればよいと考えるが、そうはならないので現行で問題ない。
- ・もう少し議員は重要な立場にあることに自信を持ってほしい。
- ・執行者の提案（議案）の審議を大切にする（議決権）。
- ・多様な市民の声を代弁するためには、これ以上の定数削減は問題だと考える。
- ・報酬は合併前から変わっていないので上げることが必要だと思うが、そのためには市民に信頼される議会改革をさらに進めることが必要だと思う。
- ・議員の市民もそれぞれ思いがあるので、形式化することは難しいと感じる。否定的、無関心が多いと感じているので、それにくじけず、市のため市民のため自分のために活動していくことが必要（形にならなくとも）。
- ・定数、報酬を減らせという意見が聞こえてくる。判断材料をどれにするか、比較対象を何にするかで定数は変わってくると思う。定数が何人であろうと報酬がいくらであろうと正解であるが批判はされる。定数に関しては現状で何の問題があるのか分からないので、現状維持でよいと思う。報酬に関しては議員を辞めた後には何の保障もない。生活ができなくなる可能性もある。そのあたりも念頭に置き、議員として立候補したい人が出てくるくらいの額は必要であると思う。
- ・定数の考え方について、面積や人口が同様の他市町の状況と横並びに考えるのも一つの方法だが、民意の反映という基本理念に立ち返って考える必要を感じる。例えば、現状の庄原市の有権者数を考えて、当選ラインが 300 票足らずであるようになれば、定数が多いと容易に感じる。また 700 票で落選となれば、定数が少ないとも言えるかもしれない。当選ラインがどの程度が適正かどうかを他市町の状況や平均値を計算して、理論的に定数を割り出すのも一つの方法と考える。
- ・定数、報酬を検討するとき、市民の意見も重要である。しかし感情によるものではなく、実際の議員の仕事をしっかりと市民に理解してもらい必要性を強く感じている。特に定数については、市民の生活に直接影響する。また報酬についても、これからの庄原市議会を担う人のためにも、真剣かつ多様な意見を活発に議論しなくてはならない。議員の兼職規定の見直し、通年議会の導入など、議会の機能などについて議員と市民が意見を共有し、結論を導き出すことが重要である。そしてその結論、結果について、市民にしっかりと説明を行わなければならない。